

会 議 録

会議の名称	平成 29 年度 飯塚市環境審議会(第 1 回)
開催日時	平成 29 年 7 月 24 日(月)14:08~15:15
開催場所	飯塚市役所 本庁 2 階 201・202 会議室
出席委員	依田委員、岩本委員、中原委員、伊藤委員、宇藤委員、中山委員、吉柳委員、後藤委員、三賀山委員、梅沢委員
欠席委員	石橋委員、坂田委員、土居委員、梅野委員、岡松委員
事務局職員	新ヶ江課長、福澤課長補佐、森山係長、城井
会議内容	<p>1 開会 2 議題</p> <p>(1) 第 2 次飯塚市環境基本計画「平成 28 年度年次報告書」について事務局から議題(1)について説明後、質問委員ごとに対する回答 ○質問-回答</p> <p>●ごみの減量化 一人一日あたりごみ排出量について</p> <p>① 年々増加している要因について →平成 26 年ごみ排出量については、資源回収量が含まれておりません。平成 27 年からは資源回収量もごみ排出量と考え、ごみ搬入量と合わせた数値で算出しております。平成 26 年も資源回収量を含めると、一人一日あたり排出量は 988 g/人・日となり、平成 28 年においてごみ排出量は減少となっております。</p> <p>② 今後の対策について →年次報告にも記載しておりますが、一人一人のごみ排出量を減少させるためには、環境教育の推進、市民意識へのより一層の啓発が必要です。質量の大きい生ごみを減らすため、食生活改善推進会との連携、生ごみの水切り効果を含むエコクッキング教室、学校・保育所で食べ残しを出さないように指導を行うこと、コンポスト化の学習を行うことなどにより、生ごみの減量化を啓発します。→ごみ出しルールの啓発方法として、自治会や公民館を通じたチラシの配布や市報への掲載などを考えています。</p> <p>●分別の徹底 資源回収量について</p> <p>① 年々減少している要因について →市で回収する資源に占める資源回収団体の回収率は 66%から 69%に増加していますが、回収量は年々減少しています。人口の減少、市民意識の向上により排出される資源ごみそのものが減少していること、民間業者が直接市民から資源ごみを買って付けて資源回収量の</p>

数値に反映されないことが考えられます。

② 今後の対策について

→市のホームページ等で資源回収団体奨励補助金について広報を強化します。

●河川等水質の改善

総括において

① 水質調査の県及び市の水質調査時期、調査項目及び調査結果について環境整備課が担当する事業が非常に多いように見えます。担当事業に関して、優先順位は決められるのでしょうか。

→遠賀川水系の水質調査（38 地点）を年 2 回（8 月、2 月）実施しました。調査項目については、全地点で生活環境の保全に関する環境基準を調査しています。また、工業団地・産廃処分場付近では人の健康の保護に関する環境基準、養豚場付近ではクリプトスポリジウムについても調査しています。調査結果の環境基準達成率は 93.42% でした。

●エコスタいいづか

一年間の取り組みの成果発表会なので、2 月の開催だと思いますが、厳寒の季節でもあり会場を検討すべきではないでしょうか。

→開催時期については教育委員会とも検討を行っているところですが、一年間の取り組みの成果を発表していること、また、学校行事のない時期に設定しているため、2 月に開催しており、現在のところ開催時期の変更は難しいと考えています。体育館を会場としているため、ジェットヒーターの設置やカイロ配布等で寒さ対策に努めている状況です。

●打ち水大作戦

地球温暖化防止の一環で打ち水をされているのだと思いますが、効果があるのでしょうか。（定点観測結果）

→今年の打ち水大作戦実施予定会場（8 月 2 日）において、実験的に打ち水を実施し気温の変化や風速を観測しましたところ、打ち水前と比較して、10 分後には気温 0.3℃の減、風速 0.7m 増、1 時間半後には気温 1℃減、風速 0.2m 増という結果になりましたので、効果はあると認識しています。

●分別の徹底

新入生（近大、九工大、近短大）に対するごみ分別チラシの配布はよくわかりましたが、卒業される学生へのごみの搬出方法チラシは配布されていますか。

→現在のところ、卒業される学生にはチラシ配付を実施していない状況です。環境対策課から全戸配布されているごみ収集カレンダーや飯塚市のホームページにおいて、粗大ごみの処分方法や連絡先について、簡潔ではありますが掲載されております。

●全体

個人が特定できる写真について、プライバシー保護の観点から、本

人の許可が得られていない場合は画像処理等をして特定できないようにした方がよい。

→撮影時には、参加者へ市報やホームページ等への写真掲載について周知し、拒否されたい場合は申し出るようお願いしています。

(2) 第2次飯塚市環境基本計画「平成28年度事務事業実施状況」について事務局から議題(2)について説明後、質問委員ごとに対する回答

○質問-回答

●**公民館活動等における自然とのふれあいの充実**

①庄内及び筑穂地域での活動計画について

→庄内地域においては、平成28年度に子ども会で行った関の山登山会に加え、公民館講座等の開催を検討します。

筑穂地域においては、平成28年度において活動が未実施でしたが、平成29年度については公民館講座や子ども会の中での活動を検討します。

●**公共施設の再生可能エネルギー施設等の導入**

①全公共施設のLED灯への導入計画について（既存施設）

→現在の導入状況について建築課が担当した工事で把握している分については別添資料のとおりです。今後の導入については、各所管課における予算の関係もありますので、一度に変更することはできませんが、所管課の判断によりLED化が必要な施設について、古くなった電球を変えるタイミング等で、徐々に導入していく見込みです。（平成28年5月の閣議決定で、2030年までにLEDを100%普及させることを目指すという目標が示されています。）

●**全体**

事業計画の内容を実施しているのに自己評価が「達成(100%)」ではなく「50%以上達成」になっているのはどういうことでしょうか？

→数値目標が設定されている場合は、その数値に対する達成度により評価しています。また、数値目標の設定がない場合は、担当課の主観により達成度を示したものとなります。あくまで、平成28年度の計画に対して実施状況がどうなのかを評価したものです。

●**ごみ出しルールの徹底**

ごみ分別リサイクルの啓発

ごみ収集ボックスでの分別ルール違反の多くは地区住民が出したのではなく、地区住民以外の出したものが多いたことを把握されていますか（対応策の検討）

→平成28年度で直営収集地域（旧飯塚地域の一部）における注意シール貼付件数が1,898件で、内1,599件が改善されましたが、残りの299件が未改善のままです。

未改善な物の内、地区住民以外からの持ち込みによるものも含まれると思われませんが、改善の可能性が高い当該ステーション地区におけるチラシ配布による啓発を優先して行っています。

●**源流環境の保全**

源流域とは、どのエリアを指すのか。

八木山ではなく、穂波川水系の現流域の保全ではないのですか。

→源流域とは市内全域の山林のことを指しています。事業対象は、調査によって荒廃森林とみなされた箇所、28年度は八木山、中、大分、長尾、内野地区で実施がありました。

●他県の産廃受け入れ停止の要望

飯塚市内の産廃施設の現状について教えてほしい。嘉麻市の産廃施設の火事を受けて市民は不安だと感じる。

→産業廃棄物の許認可等は県が行っており、市では現状把握は難しい状況です。仮に、今回嘉麻市で起きたような火災が飯塚市で起きたとしたら、県、消防、市の関係機関等が連携して消火活動、健康・環境被害等の問題解決に向けた行動を行うとともに、防災無線、県、市のホームページ等により情報発信を行っていきます。

●公民館等での環境講座開催

子どもたちが利用する図書館などを活用する方が参加者は増えると思われまます。

→現在、市立図書館では環境に特化した講座は開設しておりませんが、毎年9月中旬に開催しているサイエンスモールにおいて環境整備課及び企業局（旧水道局）上水道課、下水道課による体験型環境教育ブースの出展をしています。今後もこうした環境教育関係の出展については継続して行くこととしています。

●全体

自己評価について、全体の項目数に対して、それぞれの段階がどのくらいの割合なのかかわかるとよいです。

→

自己評価区分	件数	割合
1 未着手	10	6.5%
2 検討したが未着手	14	9.2%
3 50%未満達成	20	13.1%
4 50%以上達成	64	41.8%
5 100%達成	43	28.1%
※未回答（事業終了）	2	1.3%
計	153	100%

未回答の2件に関しては平成26年度に終了している事業、平成28年度には実施計画がなかった事業になります。

3 閉会

会議資料

資料1：平成28年度 第2次飯塚市環境基本計画 年次報告書
資料2：平成28年度 事務事業実施状況表

公開・非公開の別

1 公開 2 一部公開 3 非公開
(傍聴者0人)

その他	
-----	--